

ブラウンマスタード栽培試験（2年目）

1. 目的

新規作物として導入を検討する際の参考とする。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

- (1) 供試品種 ブラウンマスタード（品種名不明）
オリエンタルマスタード（品種名不明）
- (2) 供試面積 50m²
- (3) 耕種概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法	播種月日	収穫日
沖積土	壤土	ライ麦	66 cm× 2.7~6.6 cm	条播（ごんべ いベルト） NO103	5/8	8/18

中耕 手取り除草	施肥量(kg/10a)				
	とうもろこし2号	窒素	リン酸	加里	苦土
6/8	50 kg	4.0	11.0	5.8	2.8

4. 試験内容

- (1) 菌核病等の薬剤防除が収量や品質に与える効果の確認

使用薬剤と処理時期（非結球アブラナ科葉菜類に登録を有する薬剤から選択した）

薬剤名	使用倍率	散布月日
B水和剤	4,000 倍	6/25
Aフロアブル剤	2,000 倍	7/3、7/16

※処理開始時の生育

6/25：開花始の10日後で、開花後の花卉の落下が始まった時期。

7/3：下葉の黄化と倒伏が始まった時期。

5 生育および収量調査結果

種類	播種月日	出芽期	開花始	成熟期
ブラウンマスタード	5/8	5/12	6/15	8/14
オリエンタルマスタード	5/8	5/13	6/16	8/18

※成熟期は主茎の1/3程度の位置に着生する莢内種子が70%程度本来の色に達した時期とした。

草丈(cm)

種類	調査日			
	6/8	7/3	7/16	8/18
ブラウンマスタード	21	132	150	155
オリエンタルマスタード	14	116	150	150

m²当り茎数(本/m²)

種類	調査日			
	5/18	6/8	7/3	8/17
ブラウンマスタード	30.3	30.3	28.8	27.3
オリエンタルマスタード	89.4	75.8	68.2	65.2

※6月8日に中耕実施

収量調査(9/24)

種類	処理	風選後収量 (kg/10a)	左比 (%)	クズ重 (kg/10a)	風選割合 (%)
ブラウンマスタード	防除区	205.1	123	2.6	99
	無防除区	167.3	100	5.3	97
オリエンタルマスタード	防除区	87.8	115	12.4	88
	無防除区	76.1	100	19.5	80

- ① 防除の有無による、菌核病発病程度の差は確認できなかった。
- ② 茎数が60本/m²を越えたオリエンタルマスタードは軟弱で、倒伏や病害の発生が懸念された。
- ③ 防除を行うことで、収量は15~20%増加し、クズの割合は低下した。
- ④ 使用薬剤費は、概ね1,581円/10aである。

6 考察

- ① マスタードの種子を収穫する場合の登録農薬は「からしな(種子)」に該当する。
- ② 栽植密度は、30本/m²。草丈150cmが栽培の目安になると考えられた。
- ③ 倒伏や収穫ロスがなければ、200kg/10a前後の収量を得る可能性が示唆された。
- ④ 実際栽培では、生育初期の雑草対策が重要となる。除草剤の使用は効果が期待できるが、「からしな(種子)」の登録を有する薬剤はないため、機械除草のタイミングと精度が重要となる。

⑤ 殺菌剤の使用により、増収が期待できるが、登録薬剤で再検討が必要。



6.25 散布時の草姿

7.7 散布時 開花盛期



7.3 降雨後の部分倒伏（オリエントタルに多い）